

鶴間坂・天神坂コース

しゃ そう りん

小立野台地を潤す「貴重な緑と豊かな社叢林」

河岸段丘、小立野台地。東斜面の崖地には、今も自然の緑が残っており、崖地林には、さまざまな生き物が棲息しています。豊かな樹林を持つ社寺も多く、崖地のたくましい植生との対比も興味深いものがあります。

上野八幡神社 → 鶴間坂 → 義堅院 → 旭用水 → 椿原天満宮 →
天神坂 → 如来寺 → 天徳院



●上野八幡神社

小立野3丁目から金大工学部方面へ進みます。上野八幡神社は、スギ、イチヨウなどの大木、ヒサカキなどの低木からなる樹林です。境内には「山さむし心の底や水の月」の芭蕉句碑があります。

住宅地を進み、通りから小立野小学校のグラウンドを眺めてみましょう。グラウンド周囲には、サクラ、シラカシなど種々の樹木がみられ、特にウバメガシの巨木は見事なものです。

●鶴間坂

金沢商業高校の横を進み鶴間坂にむかいます。文人雅客が多く訪れた坂で、かつての地名、鶴舞谷が名の由来となっています。階段を備え、坂上のベンチから眺望を楽しみながらゆっくりと散策できる道として整備されています。崖地からさまざまな樹木が坂の上に枝を伸ばした緑のトンネルは、周辺環境に融合した落ち着きと静けさを創出しています。季節に応じシダレザクラやアジサイなどが花をつけ彩りを添えます。

●義堅院と旭用水

鶴間坂下にある義堅院では、手入れの行き届いたツバキ、モミジ、ヒバ、ツツジなどの低木を配した見事な庭園をみることができます。

義堅院前の道に沿って豊かな清流とせせらぎ景観を演出しているのが旭用水です。小立野台地沿いで浅野川左岸から取水している唯一の用水で、昔ながらの石積み護岸や水面を彩る花緑が、素朴な情緒と風情を醸し出しています。



●崖地林

小立野台地を左手にみながら旭町を進みます。小立野台地の表層は、おもに厚さ10m前後の礫層れきそうであり、これは約8～15万年前、犀川と浅野川がひとつの河川であったころの川底に堆積したものです。

この段丘には、竹を主体とした雑木林が茂っていますが、崖崩れの防止にも役立っているとのこと。木の実などを求めて庭木にやってくるヒヨドリの姿もみられます。

●椿原天満宮と天神坂

小立野トンネルの下を通過し、みえてくるのが椿原天満宮の樹林です。崖地斜面を開いた境内の樹林は、スギ、モミ、アカマツなどで構成されています。かつてこの地に椿原城があったとされ参道右に「狼煙のろしの松」(クロマツ)があります。金沢城へ合図の狼煙をあげたことからこの名がついたといわれています。社殿までの階段から、お城がよくみえる段があります。

天神坂は、椿原天満宮旧社名、田井天神の横にあるのでこの名でよばれています。周辺に大きな道路ができたため、今は交通量も少なくなり、歩きやすい坂道となりました。

●小立野寺院群

金沢美術工芸大学を左にみながら経王寺、如来寺、天徳院へと進みます。徳川家と縁が深い如来寺。参道左には、クロマツ、アカマツ、イチヨウなどがみられます。

天徳院は、小立野寺院群の最先端に位置し三代藩主前田利常夫人、珠姫の菩提寺として有名です。天徳院という名は姫の法名に由来しています。境内は、幹周4.5mのタブ、幹周2.2mのコウヤマキなどの大木とツゲ、ツツジ、サザンカなどの低木で構成される3,000本をはるかに超す大樹林で、一対の木造金剛力士像を安置する荘厳な山門との調和した雄姿は、心奪われるものがあります。

